

課題解決型高度医療人材養成プログラム 選定事業の概要と推進委員会からの主なコメント

〔 取組 2 〕 看護師・薬剤師等のメディカルスタッフを対象とした人材養成
(1) 地域での暮らしや看取りまで見据えた看護が提供できる看護師の養成

整理番号	16
------	----

申請担当大学名 (連携大学名)	信州大学
事業名	実践力ある在宅療養支援リーダー育成事業
事業責任者	医学部保健学科長 金井 誠
事業の概要	
<p>本事業は、在宅療養支援リーダー育成により、難病・がん・重症児など、これまで不足していた新たなニーズに対応し、在宅で安心して療養できる質の高いケアを提供するためのコアとなる看護師の育成を目指す。</p> <p>教育プログラムは、知識を学ぶ学習プログラム、モデルプログラムを実際に体験する演習プログラム、難病やがん患者への実習に加えて、互いに異なった職場を経験する実習プログラムからなる。5年間で在宅療養支援リーダーを20名以上養成する。</p> <p>本学では、既に保健学科 - 附属病院看護部との教育連携や、e-learning システム及び双方向遠隔 Web 会議システムを有し、長野県下を網羅した学習プログラムの配信が可能である。更に本学では継続教育の一環として、様々な専門コースに関するモデルプログラムができつつあり、これらにチーム医療の視点も加え、学生参加も可能なプログラムを開発し、長野県内の退院支援及び在宅療養支援基盤の整備と質の向上をねらう。</p>	
推進委員会からの主なコメント	
<p style="text-align: center;">：優れた点等、 ：充実を要する点等</p> <p>大学が核となって、実習先の施設と共同して県全体の人材養成をする計画であり、受講者は全県下から募集することが目標として設定されており、事業の持続的な効果が期待できる。</p> <p>学部生の参加、履修証明書の発行や看護協会の資格化を要望していくなど、在宅療養支援者の体系的なキャリア開発が期待できる。</p> <p>在宅療養支援リーダーの育成プログラムは具体的である。</p> <p>事業の目的を一般的な在宅看護だけでなく、難病・がん・重症児在宅ケアなど、地域ニーズの課題を明確にして、課題に対する取り組みも適切で効果が期待できる。</p> <p>在宅療養支援の中でも、特に難病・がん・重症児在宅ケアのリーダー看護師の育成は独創性があり評価できる。</p> <p>評価指標は数値化されて具体的で分かりやすく評価できる。</p> <p>教育プログラムは体系立てられており、特に演習・実習プログラムが充実しており、実践力を重視されている点は評価できる。</p> <p>在宅療養支援者育成に焦点を絞る必要があると思われる。</p> <p>教育と実践の連携による取組実績は限定的である。</p> <p>プログラムの受入れ人数が学部生以外は隔年に設定されており、養成数が少ない。補助金終了後の事業の継続に関する具体的な計画が弱い。</p> <p>事業の実施体制は、既存の地域保健推進センターの事業に教育プログラムを組み込むという計画であるが、新しいグローバルな課題解決型人材育成事業を行うためには体系化した計画が必要。</p> <p>評価指標はどのようなスケールを用いて測定するのか、また、過去のデータの推定値とされているが、期待値と思われる。</p> <p>達成目標に「在宅療養支援リーダーを目指した事業の達成目標」として在宅療養支援リーダーの能力修得目標と、学部学生の修得目標が羅列されていてわかりにくい。評価指標は具体的にされているので、項目ごとに整合性をとって整理されることが望ましい。</p> <p>事業の実施体制は大学及び附属病院のメンバーが広く参加しているが、地域連携機関の参加者が少ないように思われる。実効性のある取り組みにするには地域連携機関とプログラム開発段階から共同することが望ましい。</p>	